都道府県名	山梨県

Ⅰ　学校の概要（平成 15 年４月現在）

学校名	山梨市立山梨北中学校					
学　年	１年	２年	３年	特殊学級	計	教員数
学級数	5	5	5	1	１６	３１
生徒数	１６２	１７２	１６６	2	５０２	

Ⅱ　研究の概要

１．研究主題

確かな学力の向上を目指す学習指導に関する研究
～個に応じたきめ細かな指導を通して～
（第２年次）

昨年度の研究主題は「個に応じたきめ細やかな学習指導に関する研究：教科を中心とした生徒の学習に着目しつつ，きめ細やかな指導方法・指導体制の工夫改善を目指して（第１年次）」であった。本年度は、昨年の研究に基づいてさらに「確かな学力の向上を目指す学習指導に関する研究：個に応じたきめ細かな指導を通して～（第２年次）」とした。

昨年第１年次では、研究に取りかかる発端として生徒の学びの姿を意図的によく見ること、そして生徒の学習の様子やその特徴を顕在化することにつとめてきた。その中で本校としての課題を明確にし、生徒にとってよりよい具体的な実践方法を模索してきたのである。さらにまた、本校としてとらえる確かな学力を以下のように考えている。

確かな学力とは，単なる知識の量だけでなく，知識や技能を大切にしながら，
・知識や技能を身につけ，活用する力
・学ぶことへのやる気・意欲
・自分で考える力
・自分で判断する力
・自分を表現する力
・自分で問題を解決していく力
これらの総合的な力を「確かな学力」とした。

この確かな学力には、本校生徒にとって必要とされる部分やさらに一層伸張させる部分を含んでいる。本年度の研究は、この学力を一層はぐくむために、昨年の研究の成果の上にたってさらに邁進させる必要があると考えた。

このような経過のもとで、拡充する意味も含めて、研究主題が変更されている。

なお，平成 15 年 10 月に中央教育審議会から出された「初等中等教育における当面の教育課程及び指導の充実・改善方策について」（答申）では，確かな学力を「知識や技能はもちろんのこと，これに加えて，学ぶ意欲や，自分で課題を見付け，自ら学び，主体的に判断し，行動し，よりよく問題を解決する資質や能力等までを含めたもの」としており，本校の目指す確かな学力の記述に「自分で課題を見付け」「学び方」といった項目が明記されていない。しかし，本校の目指す確かな学力の総合的な力に内包されるものと，現在解釈している。

２．研究内容と方法

本校では、研究主題に迫るため、個に応じたきめ細かな指導のための指導方法・指導体制の工

夫改善点として以下の内容を試みている。
・生徒の問いや学習者の論理が大切にされる授業の創造
・評価規準にもとづいた指導と評価，そしてその一体化を目指すこと
・山北タイム（月曜日放課後の特設時間）の計画とその有効な活用（評価後の補正や補充、質問等への対応の時間）
・学ぶ心の育成と，学ぼうとする雰囲気づくりのための全校集会の実践
・T.T 授業や少人数指導、習熟度別学習指導の実践とその課題の明確化
・生徒の学習に対する意識調査の継続実施
・家庭学習の充実
・学級経営の充実を一層図ること
・効果的，効率的な朝学習の実践

（1）　実施学年・教科

教科指導に関わっては、確かな学力をはぐくむために、昨年と同様全学年・全教科を基本としてきている。教師側の可能な限りの指導体制のもとで、全教師が本研究を進めているのである。そこでは、各教科においてきめ細かな指導や個に応じた指導を通して、確かな学力の育成を目指してきている。とりわけ、授業時数や校務分掌等を考慮する中で、複数の教師がそろっていて少人数指導や複数教師の指導が可能な教科については、少人数習熟度別学習指導など新しい試みを実践している。

・ 1、2、3年生　数学

昨年度の実践では、１年生の各クラスをそれぞれ半分にした少人数での学習指導を実践した。本年度は、単に少人数にするだけでなく生徒の要望に一層適合した指導方法として、少人数習熟度別学習指導を実践している。２年生と３年生は５月よりこの指導方法に取り組み、１年生は 11 月よりこの方法で指導を進めてきている。この指導方法は保護者のアンケート結果による要望にも適合しているものでもある。

このように数学を少人数習熟度別学習指導として選択した理由は、他教科に比べて生徒の理解の状況に差が生じているようであり、「もっと学びたい」という生徒や「もっとゆっくり進んでほしい」といった生徒の個々の要望に少しでも応え、一人一人の生徒の理解を向上させたいと考えたからである。

・3年生　音楽

音楽では、昨年に引き続きティームティーチング（T.T)による指導を３年生で実施してきている。この教科では、歌唱指導や楽器の演奏指導など専門的な実技の指導が多く、一方の教師が模範を示し他方の教師がピアノを弾くなど、同時に一斉指導をしていく場合もある。授業の中で、生徒と関わりを強く持つことができ、生徒の学習状況に応じた指導ができるものとして、複数教師による T.T 授業が最適と考えている。これは授業の内容を考えた上で、３年生が最も効果があると考えた。

・1年生　社会

昨年度は３年生の理科で少人数の授業を進めてきたが、本年度は１年生の社会で実施をしている。調べ学習や小グループごとの課題解決学習などを指導する場合、少人数の生徒を対象として進める方が効果が高まるだろうと考えた。また、発表の場など授業内容に応じて、もとの一斉授業を行ったり、T.T による授業展開も行ってきている。

調べ学習や問題解決学習などを通して、生徒一人一人が自らの課題を発見し解決していく力をはぐくむために，個に応じたきめ細かな指導を心がけてきている。１年生の段階では、特にきめ細かな指導を心がけることにより、２、３年での学習に反映でき効果があるものと考えている。

（2）年次計画

・平成 14 年度

〇テーマ

主題　個に応じたきめ細やかな学習指導に関する研究

副題　教科を中心とした生徒の学習に着目しつつ、きめ細やかな指導方法・指導体制の工夫改善を目指して　（第１年次）

〇研究の見通し（研究仮説）

教科指導を中心にまずは生徒の学習に着目する。そして、一人一人の生徒の目標に準拠した絶対評価を通して適切な生徒の評価をする中で、生徒の実状を捉えるならば、それに基づいた事実や様相を計画に反映させることができ、本校生徒の実態にあったきめ細やかな指導方法・指導体制の工夫改善の糸口がつかめるだろう。

〇研究内容・方法

①授業の改善に向けて全教師で取り組むこと
②教師の共通理解を求めて話し合いを進めていくこと
③教師から見た本校生徒の特徴をまとめること
④生徒の学習に関しての意識調査を継続して実施し、考察していくこと
⑤指導と評価の一体化を目指していくこと
⑥授業研究を通して検証をしていくこと
⑦二学期制の導入など、ゆとりある学習の保証を目指すこと

・平成 15 年度

〇　テーマ

主題　　確かな学力の向上を目指す学習指導に関する研究

副題　　個に応じたきめ細かな指導を通して（第２年次）

〇　研究の見通し（研究仮説）

各教科において、個に応じたきめ細かな指導を工夫し実践するならば、生徒一人一人の確かな学力が向上するだろう。

「個に応じた」「きめ細かな」指導については、各教科の特性に基づいた個に応じたきめ細かな指導を考えている。個別化、個性の尊重を重視した指導、個人差に応じた指導など、各教科で必要と考えられ，しかも可能な実践を計画し試みるものとする。そして、今後もさらに実践とその振り返りを重ね、より本校生徒の実態に応じた内容としていくものと考える。

〇　研究内容・方法

①生徒の問いや学習者の論理が大切にされた授業の実践
②評価規準にもとづいた評価と指導、そしてその一体化を目指すこと
③山北タイム（放課後の特設時間）の計画とその有効な活用
（評価後の補正や補充に充てられる時間や質問のための時間等）
④学ぶ心の育成と、学ぼうとする雰囲気づくりのための全校集会の実践
（生徒会の主導のもとで、全校生徒による学びの集会の実施）
⑤社会科の少人数指導の実践と課題の明確化
（昨年の理科から社会科に少人数指導が変更された。これは、教職員の異動に関わり、理科の教員数が減り社会科の教員数が増加したことに原因がある。）

⑥数学科の少人数習熟度別学習指導の実践と課題の明確化
⑦音楽科の T.T 授業の実践と課題の明確化
⑧生徒の学習に対する意識調査の継続実施
⑨家庭学習の充実を目指すこと
⑩学級経営の充実を一層図ること
⑪効果的、効率的な朝学習の実践
⑫フロンティアスクール中間発表会の実施

・平成 16 年度

〇テーマ

主題　　確かな学力の向上を目指す学習指導に関する研究

副題　　個に応じたきめ細かな指導の質の向上を目指して（第３年次）

〇研究の見通し

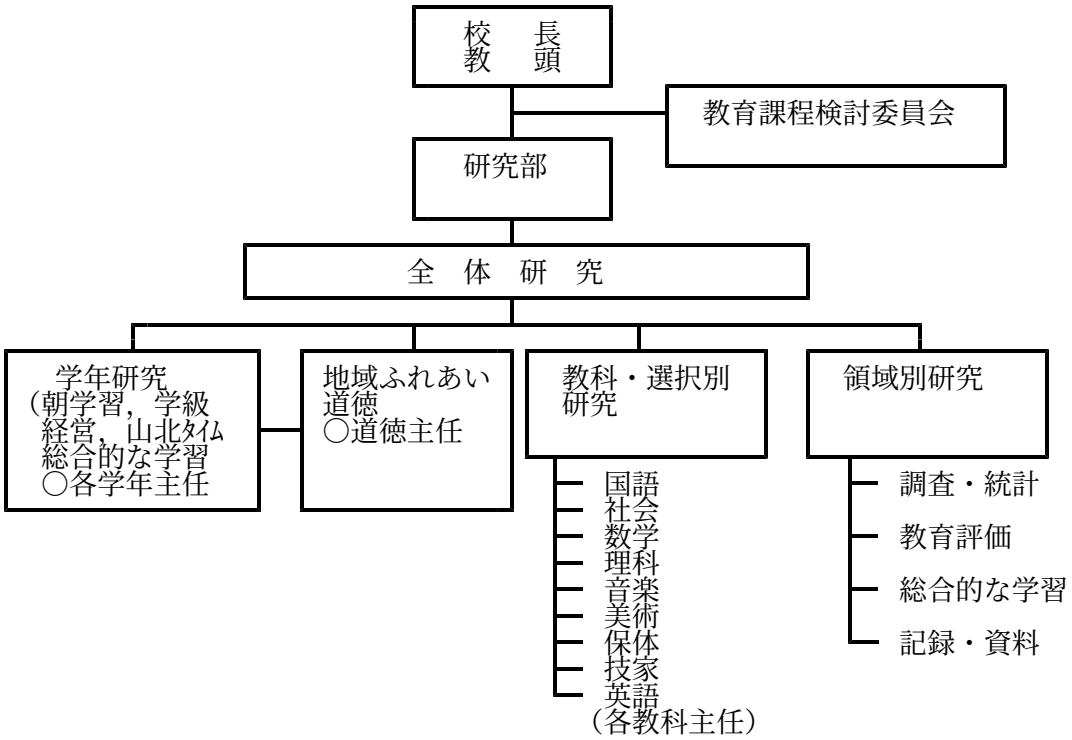
第２年次の課題をもとに、各教科において一層個に応じたきめ細かな指導を工夫し実践するならば、生徒一人一人の確かな学力が向上するだろう。（研究仮説）

〇研究内容・方法

15 年度（２年次）では、各教科で評価規準を新たに作成し指導と評価の一体化を目指し、さらにまた、生徒の問いや学習者の論理を大切にした授業づくりを目指してきた。16 年度には、これらを一層発展伸張させる必要があろう。評価規準をさらに見直すと同時に、確かな学力をはぐくむための教育課程について検討しつつ、授業公開の本公開に臨みたいと考える。そしてこの公開を通して本校の取組やその成果について広く意見を聞き検証していく予定である。

（３）研究推進体制

全体研究を中心に取り組んでいる。15 年度の実践研究組織図は以下の通りである。



研究体制の上で工夫している点は、校長・教頭の下に研究部をおいている点にある。ここでは、校長・教頭の指導の下で、６名のメンバーが担当し、研究の方向性や内容などの原案を検討している。さらにこのメンバーは、教科・選択別研究と領域別研究の主任を兼ねている。研究の内容や方向が惑わずスムーズに進められるよう考えている。

Ⅲ　平成 15 年度の研究の成果と今後の課題

１．研究の成果

本校は，３年間の研究指定を受けており、ここで強く望まれていることは，生徒の確かな学力の育成と考えている。ここでは単にペーパーテスト等で測られる学力だけでなく，関心・意欲や思考・判断といったペーパーテストで測り難い内容も含んでいる。ペーパーテストではっきりと計り得ない生徒の能力をいかに伸ばすのかということを、真剣に考えつつ個に応じたきめ細かな実践をすることが、各教科において強く望まれていると考えているのである。

【客観的なデーターとして】

現在の３年生２年生の図書文化社による ＮＲＴ（相対集団準拠評価）の比較結果は、以下の通りである。各表は、各教科の偏差値とその標準偏差、各教科の５段階分布の各段階の結果を割合で示している。

・現在の３年生（入学時の結果）

２００１．４．３０実施 １６６名

平均		標準偏差	５段階分布（%）				
			1	**2**	**3**	**4**	**5**
知能	47.4	9.5	9	30	40	17	5
教科平均	49.0	8.0	5	23	47	24	2
国語	49.2	9.6	9	20	40	29	3
社会	45.3	9.0	13	32	41	12	2
算数	49.6	9.0	4	30	35	24	7
理科	51.4	9.0	5	13	44	35	3

２００３．５．２７実施（現在３年生５月の結果）１６２名

平均		標準偏差	５段階分布（%）				
			1	**2**	**3**	**4**	**5**
教科平均	50.6	7.3	2	17	51	29	1
国語	51.3	8.2	4	14	42	35	4
社会	50.4	8.7	2	23	43	28	4
数学	50.8	8.4	1	24	44	25	5
理科	49.3	7.8	2	27	43	27	1
英語	51.0	9.0	2	21	36	33	7

・現在の２年生（入学時の結果）
２００２．４．３０実施 １７２名

平均		標準偏差	５段階分布（%）				
			1	**2**	**3**	**4**	**5**
知能	50.4	9.3	6	19	47	19	9
教科平均	49.9	7.9	2	22	43	31	2
国語	51.1	8.9	7	14	41	34	5
社会	48.0	8.7	5	28	43	24	0
算数	48.8	9.6	6	27	38	24	5
理科	51.5	8.8	5	16	36	39	4

２００３．４．２８実施（現在２年生４月の結果）１６４名

平均		標準偏差	５段階分布（%）				
			1	**2**	**3**	**4**	**5**
教科平均	51.7	8.3	2	18	41	34	6
国語	52.3	8.8	4	15	43	32	7
社会	51.5	9.6	2	24	37	27	10
数学	50.3	9.9	5	25	32	29	8
理科	52.9	9.7	3	19	31	37	10
英語	51.1	9.7	5	20	31	34	10

上記結果は、３年生は２カ年間の比較であり、２年生はここ１年間の比較の結果である。これらの中の最近の全国標準学力検査の結果を見ると、本校の生徒は、全国標準と同じかおおむね上まわっているといえる。また、各学年の入学時のデーターと単純に比較しても上昇しているものと考える。これは生徒自身の努力の結果であると同時に、教師側の指導がほぼ妥当であっただろうと現時点では考えている。

ところが、2003 年７月に実施した山梨県教育課程実施状況調査の結果のデーターの中から「勉強に対する興味・関心」ととらえられる項目を抜粋すると、以下のようになっている。数値は%。

【質問項目】　　・勉強が好きですか

学年	そう思う	どちらかといえばそう思う	どちらかといえばそう思わない	そう思わない	分からない
1	6.3	20.0	41.3	23.1	9.4
2	3.7	17.9	34.6	42.0	1.2
3	1.8	15.3	41.1	34.4	7.4

この数値から、学年が進むにつれて勉強が好きでない生徒の割合が増えており、勉強に対する興味・関心が薄れていく傾向が分かる。勉強に対する意欲・関心・興味等が高くなるような、少なくとも低くならないような指導方法の工夫がさらに必要であろうと考える。

【中間発表会のアンケートから】

本校では、2003 年 11 月 19 日に学力向上フロンティアスクール中間発表会をおこなった。ここでの参観者からのアンケートには、生徒の特徴として以下のようなコメントを頂いている。

・生徒の質のよさがうらやましかったです。
・落ち着きのある学校風土は、「学力向上・・・」の重要な要素である・・と感じました。

本校生徒の特徴をあらためて認識しなおし、生徒のよい面を今後もさらに大切にしながらはぐくんでいく必要があると考えている。

２．今後の課題

今後さらに研究主題に迫るため、個に応じたきめ細かな指導のための指導方法・指導体制の工夫改善を一層進めていきたいと考える。そのために、研究の方向性はおおむね本年度と同じとし、取り組んだ内容や方法の質をさらに高めていくよう努力したい。具体的には以下の内容や方法を考えている。

①　具体的な授業づくりに関わって

・生徒の問いや学習者の論理が大切にされる授業の実践をさらに目指すこと。
・各授業を通して、生徒の学習に対する興味・関心を高める工夫を考えること。
・評価規準にもとづいた指導と評価，そしてその一体化をさらに目指すこと。
・保護者向けの評価の説明会の継続実施と、生徒向けの評価の説明の継続。
・可能な限りの T.T 授業や少人数指導、習熟度別学習指導の実践。
・学級経営の充実を一層図り、一人一人の生徒の特徴を把握するよう努めること。

②　特設時間に関わって

・学ぶ心の育成と学ぼうとする雰囲気づくりのための全校集会の継続。
・山北タイム（月曜日放課後の特設時間）の計画とその有効な活用。
・学習の振り返りができる山北ノートの作成。
・生徒の意欲や関心を高める効果的，効率的な朝学習の実践。
・夏休みのサポートタイムの継続実施。

③　生徒の意識調査に関わって

・生徒の学習に対する意識調査の継続実施。
・家庭学習の一層の充実を目指すこと。

Ⅳ　学力把握のための学校としての取組

本年度の予定として、Ⅲ－１で述べた図書文化社による ＮＲＴ（相対集団準拠評価）とＣＲＴ（目標準拠評価）を年間１回づつ実施したいと考えている。NRT を年度当初に、CRT を年度末の実施予定である。全国標準に対して本校の様子はどうかと比較したり、年度ごとの結果の比較をとらえたいと思う。しかし、予算の面で考えるべき点もあり可能な限り実施したいと考える。

校内独自の取組として、生徒の学習に対する意識の変容を細かくとらえる目的で、年２回の意識調査を質問紙による方法で実施してきている。７月夏休み前と３月年度末に行い、既に３回実施している。設問項目は以下の通りである。

生徒の学びに対する意識調査項目

１，あなたは学校で学ぶことは楽しいですか。
２，あなたの学ぶ目的は何ですか。
３，授業に自分から進んで取り組んでいますか。
４，授業に、宿題や課題、持ち物などを忘れることはないですか。
５，今まで学習してためになったことをできるだけ使おうとしていますか。
６，授業中、問題や課題をまず自分ひとりで考えようとしていますか。
７，授業中、自分の考えや意見を、進んで発表したり表現したりしていますか。
８，授業中、自分の判断で決めようとしていますか。
９，授業中、自分の力で問題を解決しようとしていますか。
10，授業中、友達や先生の意見や様子を参考にしようと、聴いたり見たりしていますか。
11，小学校や中学校の授業を振り返ってみて、今までに一番ためになった授業は、どんな授業でしたか。１つだけ具体的に書いて下さい。
12，土曜日と日曜日が休日となりましたが、土・日曜日に勉強する時間は平均何時間ですか。
13，平日、家で勉強する時間は平均何時間ですか。
14，塾など学校以外で勉強する時間は一週間で合わせて何時間ですか。
15，家庭で自分なりの学習方法を持っていますか。どんな方法か書いて下さい。

毎回同じ項目で調査を実施し、生徒の学習に対する意識の変容を少しずつとらえたいと考えている。今までの集計結果では、Ⅲ－１で述べたように、学年を追うごとに学ぶ楽しさが減少していく傾向が示されており、家庭学習が少ない生徒がいることも示されている。

Ⅴ．フロンティアスクールとしての成果の普及について

2003 年 11 月 19 日（水）には、以下の日程でフロンティアスクール中間発表会を実施した。公開した授業数は 16 であり、全教科を公開した。本年度は、近隣の小中学校の教師や本校保護者を中心に案内をし、201 名の参観者があった。

1:00	1:30	2:20	2:40	3:10	4:15
受　付	公開授業	生徒下校	移動	全体会 各教室 TV 放映	研究協議会 （各教科ごとに）

公開発表後の質問紙によるアンケートでは以下のようなコメントを頂いている。

・今一番求められている研究テーマだと思います。
・全教科公開が大変意義あることだと思いました。
・大変なことだし、参考になりました。（山北タイムなど）
・具体的でわかりやすいものでした。
・補習や自習の時間を設けているということは、フォローになりとてもよいと思いました。
・限られた時間の中での研究は大変だと思います。参考にさせて頂きます。

・わかりやすい説明などありがとうございました。
・真の学力とは何か。基礎学力、生きる力、改めて考えさせられました。今求められていることに合った研究だと思います。
・国語科では何を、ということが大変難しいと思いました。
・国語科における確かな学力とは何か、という視点を学ぼうと思いました。
・協議会でも出ましたが、それぞれの教科における確かな学力というものをはっきりとさせておくといいと思います。

ここで頂いたコメントについては、校内研究会で検討しており、来年度の研究に十分役立てていきたいと考えている。

さらに普及の活動として、地区懇談会、小学校区市民会議にて取組について説明を行った。校内においては、学校委員会、学年懇談会、学級懇談会で、取組の説明を行った。また、本年度は、新しい試みとして７月 10 日（木）から日曜日をはさんで１週間を授業参観週間とし、放課後を利用して保護者を対象とした評価の説明会を開いた。一週間の毎日の放課後を各教科に受け持ってもらい、９教科の評価について、それぞれどのように生徒の学習を評価をしていくのか説明をした。関心の高い内容であり、保護者の中には毎日説明会に参加された方もあった。今後も、研究の成果を伝えながら理解と協力をお願いしたいと考えている。

地区への普及活動として、今年度は７月８日に第３回峡東地区学力向上推進協議会が開催され、本年度の新しい取組の内容と具体的な実践例を発表した。今後２月 27 日には第４回目の協議会を予定しており、本年度１年間の成果を発表する予定である。

【新規校・継続校】　14 年度からの継続校
【学校規模】　16 学級以上
【指導体制】　少人数指導　T.T による指導　その他（習熟度別学習指導）
【研究教科】　原則として全教科
【指導方法の工夫改善に関わる加配の有無】　有